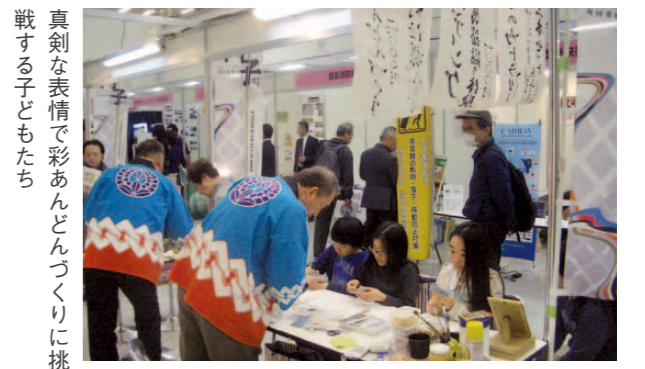


## 内子伝統の技を都心で発信 豊島区で「ものづくりメッセ」

内子町と内子手しごとの会（山本勝美会長）は3月7〜9日、東京都豊島区との交流事業を推進し、内子町産品の販売の促進、販路の拡大を目的に「第6回としまものづくりメッセ」に参加しました。今回で3回目の参加になります。

会場では、彩あんどん・和紙製品・どぶろくなどの展示販売、観光コーナーを設置した他、「彩あんどん創作」「ギルディング和紙体験」などのワークショップを実施しました。多くの人が足を止め、興味深そうに見入っていました。



真剣な表情で彩あんどんづくりに挑戦する子どもたち

## 災害時や訓練での活躍を期待 内子町消防団に防災活動車



寺坂会長（右）から久保消防団長に交付決定書が渡されました

全日本消防人共済会（秋本敏文会長）は、内子町消防団へ防災活動車1台を送りました。それを受け同消防団は3月28日、受納式を行いました。愛媛県消防協会から寺坂末吉会長が式に出席し、交付決定書を久保文男内子町消防団長に手

渡しました。新しく配備された防災活動車は、四輪駆動の軽ワゴン車で、機動性が高く山間部の狭い道や積雪にも対応できます。今後は、訓練や災害時の資機材運搬、広報機能による防災活動などさまざまな場面で活用されます。

## 町内138人の新小学1年生 期待と元気いっぱい入学式

町内各地で4月8日、入学式が開かれました。今年には町内で138人の1年生が入学し、新しいランドセルを背に学校生活スタートしました。26年度に小田小学校、田渡小学校と統合する参川小学校（松岡誠一郎校長）でも、最後となる入学式が行われ6人の1年生が入学しました。高本匡介PTA会長は「参川小学校140年

の締めくくりです。これからも優しい自然や人に包まれて元気な参川っ子が育つ参川地区にしよう」とあいさつ。松岡校長が「最後の仲間がそろったことをうれしく思います。一緒に参川小学校の思い出をたくさんつくりましょう」と言う元気な参川っ子は、「ありがとうございます！」と大きな声で返していました。



1\_うれしそうに教室へ向かう1年生  
2\_一人一人に教科書を手渡す松岡校長

## あ る ん ぜ ビジターセンター「A・runze」 まちの駅「Nanze」オープン



内子町ビジターセンター「A・runze」とまちの駅「Nanze」が4月14日、合同の開館記念式典を開きました。旧内子警察署を改修したビジターセンターは観光振興を図る新たな施設です。対面の観光案内、パネルや写真による地域紹介、口コミなどによる情報を発信します。まちの駅は内子まちづくり商店街協同組合（大西啓介理事長）が運営する施設で、地域特産品の

展示・販売、地域の素材を使用したスイーツの開発や販売をします。稲本町長が「地域の魅力をどんどん発信して、町全体が元気になることを期待しています」とあいさつ。大西理事長は「内子町と商店街が協力したら、どんな素晴らしいことができるか、その可能性に胸が躍ります」と話しました。広報3月号で募集した施設の愛称は、「A・runze」に決定しました。

「こんなものあるんぜ」という方言から。隣接するNanzeとも合うおしゃれな名前です。当選者は、最優秀賞・水口ユキ様（松山市）優秀賞・宮瀬瞬平様（内子5）でした。

1\_ビジターセンター（左）とまちの駅（右） 2\_ビジターセンター1階の展示 3\_まちの駅で販売されているスイーツ 4\_ビジターセンター前でテーブルカット

## 伊予銀行とまちの発展で協力 12項目の連携・協力協定を締結



協定後、固い握手を交わす稲本町長と大塚頭取

内子町と伊予銀行は4月3日、「地域経済の持続的な発展に向けた連携・協力協定」を締結しました。同協定は、相互の資源を有効に活用して、内子の優れた産品や技術などを国内外へ積極的に売り込むことなど、活力ある産業の振興に努めることで、地域経済が持続的に発展することを目的としています。「県外支店等を活用した都市部への展

開及び交流の支援に関すること」など全12項目について連携します。稲本町長は「互いの知識や技術を駆使することで、産業振興などの課題解決や活性化につながる」と期待しています。大塚頭取は、「内子町は観光資源や自然に恵まれており、地域産業をリードしている。さらに前進するよう協力したい」と力強い言葉を述べました。